

まちづくりミーティング開催結果概要



開催テーマ 自治会活動への若者参加について

参加者

桐生市区長連絡協議会(11～22区の区長)12名

桐生市長

傍聴者 2名

報道機関 1名

日時:令和7年8月18日(月)午後4時30分～午後5時35分

場所:市役所 3階 第1特別会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 議 題

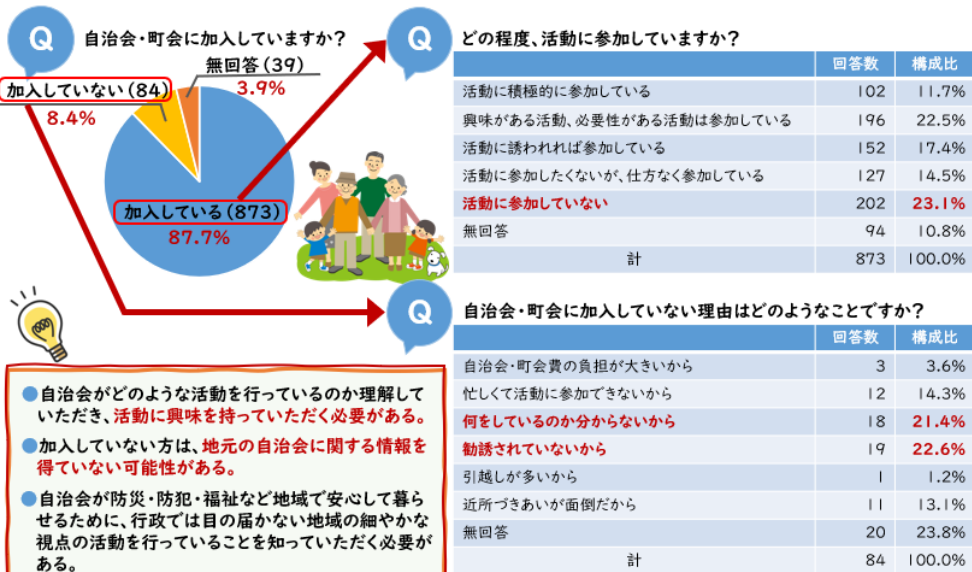
自治会活動への若者参加について

意見交換のポイント

- 若い世代が参加しやすい自治会活動について
- 担い手確保のため、柔軟な自治会運営体制について 等

5 閉 会

自治会・町会に関するアンケート結果（第24回「市民の声」アンケート結果[令和3年実施]）



自治会活動に若者の参加を促す取組事例

①北海道・札幌市

●現役世代に参画してもらうために

きっかけづくり

カフェミーティングを開催
(現役世代が町内会や地域コミュニティにどのようなことを求めているか、現役世代の声に耳を傾ける)

情報の発信方法を工夫

定期的なポスティング、SNSなど多様な方法で町内会情報を発信

メリットを感じてもらう

現役世代のニーズに対応した活動を意識的に行う



②山形県・鶴岡市

●将来を見据えた持続可能な組織づくり

役員体制・事業等の見直し

役員・班体制の縮小や役員手当の見直しや将来を見据えた町内会費へ変更

各世代が参加しやすい活動

若者から高齢者まで幅広く参加できる防災研修会などを開催

郷土愛を育む環境づくり

・子どもの頃から地域活動に関わることができるように開催日や運営形態等を工夫
・伝統行事・芸能への理解促進や継承活動支援



③広島県・広島市

●若者参加で元気な町内会に

誰でも気軽に参加できる行事

・若者に声を掛け、祭りの準備を手伝ってもらう
・地域行事に関わることで若い世代の参加が増えにぎわっている

子どもも親も参加したくなる活動

地域からの声掛けにより子どもの参加を通じて親同士が仲良くなり、困ったときお互いを助け合える関係が構築できていることが地域活動を続けられるコツ



(市長)
本日は開催テーマを「自治会活動への若者参加について」とし、皆さんと意見交換を行い、「共感」「共創」によるまちづくりを創造してまいりたい。

意見交換のポイント

- 若い世代が参加しやすい自治会活動について
- 担い手確保のため、柔軟な自治会運営体制について等

とさせていただきます。

まずは「自治会活動への参加状況や若者の参加を促す取組事例」などについて説明させていただきます。



市長より「自治会活動への参加状況や若者の参加を促す取組事例」の説明

※資料参照

(市長)
持続可能な自治会活動を行っていくためには、若い世代や女性の参画が大変重要となる。
本日は、各区が取り組んでいる若い世代が参加しやすい取組や今後検討している取組、その他、普段感じていることについても忌憚のないご意見をいただきたい。



地域活動におけるデジタル活用

自治会の担い手不足など変化する地域課題に対応し、将来にわたり地域活動を持続可能なものとするため、自治会活動にデジタルを活用し、事務負担や情報共有等の効率化を図るとともに、活動に関する情報発信の強化を進める必要がある。
(総務省「自治会等における地域活動のデジタル化ハンドブック」等より)



情報伝達を取り巻く課題

自治体の抱える課題(例)

- 紙の回覧板では環境への配慮が難しくコストもかかる。どこまで回覧されたか把握が難しく、紛失リスクあり
- 一般的なSNSの利用では、なりすましや誤情報の氾濫リスクがある

マイナンバーカード認証公共アプリ「tami tami」による解決

- 自治体と住民が同じサービス上で繋がれる電子回覧板の導入により、管理コストを低減し情報伝達の網羅性を向上
- 本人認証を前提としているため、住民による誤情報や不適切な情報の発信リスクが最小限

電子回覧板導入のメリット

- 情報伝達の迅速化
- 配布・収集等のコスト削減
- 業務効率化
- 情報の一元管理
- 環境負荷の軽減
- 情報が手元に残る(紙媒体は一過性)
- 高齢者の見守り(閲覧確認機能)
- 感染症対策になる
- 災害時の情報伝達や、平常時の情報共有の効率化に役立つ など

地域活動におけるデジタル活用

電子回覧板の実証実験について(東久方町三丁目自治会)



◆ R6.10月：区長連絡協議会定例会にて案内

マイナンバーカード認証公共アプリ「tami tami」(※バカン)

→ 東久方町三丁目自治会より実証実験への協力していただける旨の申し出

回覧板機能でできること

1. 地域の回覧板を確認
2. 自治体からのお知らせを確認
3. 掲示板のような情報発信

自治会、バカン、市により実証実験開始に関する打合せ等を実施

◆ 現在5・6人がマイナンバーカードの登録作業完了 → 今後、登録人数を増やしていく

利用機能の修正中

利用のハードルを下げるため、マイナンバーカードの登録をしなくても利用できる機能も設定
イベントカレンダーなど新機能の追加

◆ R7.9・10月頃：少人数により実際にアプリを利用予定



アプリ:回覧板一覧画面イメージ



魅力のある自治会運営に向けた取組について

（意見）
 役員の高齢化やなり手不足については、大きな課題になっており、町会長会議で役員構成のあり方や若者参加について解決策を話し合ったが、やはり非常に厳しい状況である。

そのような中、会議についても、土日ではなく平日の夜7時過ぎに行うなど工夫をしている。

また、子育て世代の若者を自治会活動へ引き込むためには、何かメリットがないと協力していただくことは難しく、例えばカリビアンビーチや遊園地の無料券配布やごみ袋の無償提供などの特典も考えられるが、現状の市からの事務委託料では費用を捻出することは難しい状況である。

町会委員や隣組長などについては、現状では輪番制で役を務めていただいていることが多いが、独居高齢者の世帯は飛ばしたり、人選が難しいと前任者が次期委員を探してお願いするというのが恒例となっている。若者も自治会の役員を受けるためには、勤務先の理解がないと難しいという意見もあることから、例えば市から役員となるための推薦書や感謝状などを会社へ出していたくというのではないかと考える。

役員手当についても改善を図り、魅力のある自治会運営ができれば、人選しやすくなるのではないかとこの意見も出ているため、事務委託料についても検討していただけるとありがたい。

子どもの見守りでは、下校時間帯に各交差点で児童の安全を見守ったり、高齢者の見守りについても町務員を中心に行っているが、この点については、若者が担うことは難しい状況である。

若い世代が参加しやすい環境づくりを



（意見）
 自治会活動への若者の参加については、やはり参加しやすい環境をつくるのが大切である。例えば体育協会や防犯協会など、各種団体がおり、様々な行事が行われているが、若い世代は仕事をされている方がほとんどであるため、会議は夜7時から開催しており、時間帯を調整することにより多くの参加をいただいている。そのため、些細なこともかもしれないが、人を集める場合は、日時や場所を工夫し、参加しやすい環境づくりが必要であると考えている。



（市長）
 様々な取組を一生懸命行っていたと思いますが、大変ありがたい。また、若者の参加が厳しくなっている中、具体的な提案までいただきたい。

人と人とのつながりにより 担い手不足解消へ



会議の開催内容を見直して 負担軽減を



（意見）

民生委員の人選については、色々と努力して見つけたが、各町会難しいということで一人欠員している状況である。

また、若い世代の参加しやすい自治会活動に関しては、やはり共働きや子育てで時間的な制限があり、積極的に参加していただくまでには至っていないが、子どもが多く参加する夏フェスタやスプリングコンサートを開催した際に、保護者に積極的に声を掛けて、地域活動に理解・興味がある方をこちらから声を掛けて役員をお願いしている。

（市長）

広くこちらからPRして募集をかけるなどではなく、地域活動に理解のある方をうまく発掘するという形で進めているということで大変参考になった。

（意見）

自治会活動に積極的に参加していただける方の中、隣組長までは輪番制で回ってくることを承知しているが、自治会長までとなるとやはり敬遠され人選が難しく、最近では70歳過ぎても仕事をされている方もいるなど、時間的に余裕がなく協力できないと断られてしまっている。また、民生委員や交通指導員でも欠員が生じており、次の方を見つけるのが難しい状況である。

そのようなことから、会議活動等々を今後は少し絞ることもしていかなければいけないと感じており、開催時間についても参加しやすい夜7時からにするなど、細かいところを役員で気を遣い、負担を減らしていくことも検討していきたい。

（市長）

民生委員の人選については、他の区でも苦慮していると話が出ており、今後、大きな課題になってくると改めて感じさせていただいた。

積極的な声掛けて 地域活動参加を促す



（意見）

現在の14区自治会組織の役員は70歳を過ぎてようやく参加していただけるような状況だが、組織的には機能している。一方、若い世代の参加という点では、自治会活動に直接関係はしないが、例えば野球やバレーボールなどのスポーツ関係団体や学校のPTA関係、保育園関係の活動については時代の流れで、若干縮小気味だが継続している。

担い手不足という点では、スポーツ団体で50歳過ぎても活動しているような方が元気で発言力もあるため、そのような方に声を掛けていくことも検討していきたい。

（市長）

スポーツ団体、PTA、保育園など、横のつながりや人材のつながりをいかに自治会の方に導くことができるかということであるが、担い手不足解消につなげていただきたい。

役員改選により若い世代へ転換を



(意見)

16区でも役員手当を上げる予定である。

若者を自治会活動に巻き込むことについては、例えば、町会の中には、育成会、青年部、婦人会、老人会など様々あり、若い時からスポーツを通じたつながりがあるため、役員を担う年代になったときに非常に頼みやすく、快く引き受けていただいている。

民生委員や交通指導員の人選でも苦慮しているが、人とのつながりの中で、適任者を見つけられており、今話したスポーツのつながりというのが一つあると思う。

スポーツ関連では、町内対抗野球大会について、参加チームが減少する中、町会をまたいだチーム編成を行うことで、新しいつながりを持つことができており、このようなことを通じて若者が自治会活動に参加していただければと思う。

また、町会対抗球技大会開催に向けて進めているが、各町会から体協の役員など色々な方が関わり、コミュニケーションを図ることで運営的には非常にうまくいっている。

町会の会議についても、午後6時は早く、午後7時では遅いという意見もあったため、試行的に午後6時30分から開催するなど、参加者の意見を伺いながら開催方法を工夫している。

(意見)

15区では、若者の団体や高齢者の団体は約80あり、若者の団体は活発に活動しているが、高齢者の団体はやはり人数が減少しており、若者を取り込もうとしているが難しい状況である。ただし、役員にも任期があり、改選により団体のトップが代わるとそのメンバーも変わってきている。

本日の議題では自治会活動への若者の参加についてとなっているが、15区では、役員手当をアップして見直しを図っているが、役員についてはある一定の年数がきたら次の方へ代わるなどしないと若者の参加を促すことができないため、そのようなことも考えていかなければならない。

(市長)

既に具体的に取り組んでいたということや若い世代への転換への提案について参考させていただきたい。

スポーツを通じた人のつながりを生かし 担い手不足解消



(市長)

確かにスポーツを通じた人と人とのつながりは強く、担い手の人選においても一つの有用な手段であると思う。

若者のキーマンから輪を広げる



(意見)

自分は保護司を25年務めているが、保護司については、自治会役員の人選と同じように、現役の方が勧誘して人を見つけたというのが大抵の流れであるが、最近では自ら保護司になりたいという方も半分程度おり、地域のために活動しようと思う方も増えてきているのではないかと思う。

若者の自治会活動への参加を促すためには、やはり魅力がないと難しいと思うため、参加しやすい会議時間の設定や役員手当アップなどを検討しなければならぬ。

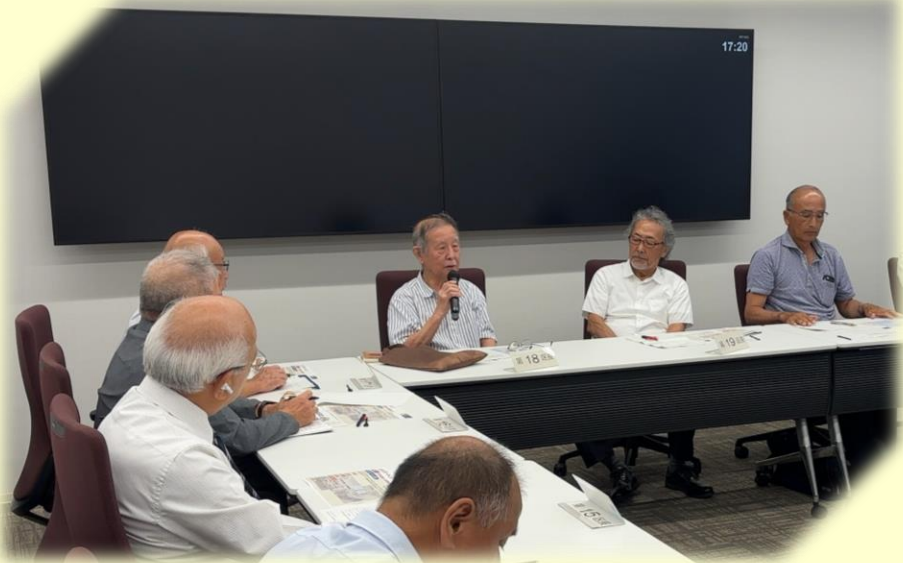
また、PRについても重要であり、広報紙やホームページを活用して若者の自治会活動への参加や役員候補者などを募るなど周知できるといい。

(市長)

大変貴重な意見をいただきありがたい。広報紙等PRの件については、検討させていただきたい。



自治会活動への参加などを促すPRを



(意見)

色々なイベントを各町会で開催しており、人は集まってくれているが、運営体制に多少難があり、今後調整しなければならない。

また、町会の会議の開催日時についても、若い世代が参加しやすいような時間帯を検討しなければならない。その会議方法については、顔を突き合わせて行うのが本来は一番いいと思うが、町会での連絡方法として、一部LINEを活用してコミュニケーションを図ったりしている。

今後については、やはり若者でキーマンとなる方にも一人でも2人でも参加していただき、そこからその年代の方たちへと広がっていく方法がいいと思う。その際は、誰でもいいということではなく、リーダーシップが取れる方を見極めながら若者の輪を広げたい。

(市長)

まずは若者の中でキーマンとなる方を自治会へ呼び込み、そこから交流の輪を広げていくという提案をいただき大変参考になった。

地域活動におけるデジタル活用について



(意見)

19区の現状としては、とにかく若者がいないことで、今年新里北小学校に入学した子どもは8人のみとなっている。育成会やPTAについてもそれぞれ活動をしていたが、人数が少なく、老人会や婦人会もなくなってしまう。

課題としては、自治会活動へ参加していただける若者はいるが、圧倒的に数が少ないことから、例えば、区内外または県内の高校生や大学生などの若者に、この現状を改善するための提言などをいただき、取り組んでもいいのではないかと思う。そのテーマとしては、自主防災やハイキングなどの運動行事に関する、その他、地域課題の解決のためであれば何でもいと思う。

地域活動におけるデジタル活用については、当然活用した方が良く、自治会長会議でもLINEによる情報・意見交換をしている。また、地域の魅力向上のためにも、先ほどの区内外の若者たちに情報発信をしていくなど検討していきたい。

(市長)

まずは地域に人を呼び込んだり、地域の魅力をSNSを活用して発信するという提案をいただいた。地域の活性化につながるようにできればいい。

(意見)

資料のアンケート結果にもあったが、町会には加入しているが、何をしているのか分からないということについて、特に、若い方で町会の役割を把握されていない方が多いと思うため、例えば事業報告書や収支決算書などの情報をこれまで以上にしっかりと届くようにしていきたい。

また、自治会活動には勧誘されていないから参加していないという話もあるため、区のイベントでスポーツ大会などについても、地区の役員や班長に積極的に声掛けをしていただくようお願いしているが、任期1年の班長が勧誘を頑張っても翌年は別の方になり、前回の参加者へ声を掛けるのみで元に戻ってしまうなど、その年によって参加率もまちまちとなっているため、区のイベントの開催情報についてもしっかりと届くようにしていきたい。

(市長)

自治会活動への参加を促す情報提供の大切さというところで、ご提案いただきありがたい。

自治会活動への参加を促すための周知について



電子回覧板導入による情報伝達の迅速化や利便性の向上について

電子回覧板
(回覧板一覧画面イメージ)



(意見)
自治会役員のなり手不足解消のため、役員手当を上げるという区もあったが、22区では世帯も減少し、事務委託料も年々減少しているため、逆に手当を下げることに検討しなければならぬ状況である。

22区は高齢化率が52%を超えており、若者が少なく、黒保根学園があるが児童生徒50人のうち約半数が町外からの通学者でほとんど町内には子どもがいない状況である。

若い世代に役員になっていただくにも会議が平日の昼間に開催するようなこともあり、非常に難しい。また、町会長は任期2年の輪番制としているため、あまりノウハウが引き継がれていないというところが課題となっている。

自治会の行事については、若者も少しは出ていただいているが、参加する方も決まってしまうている。自分が担当している水沼町会のイベントでは、防災のイベントと懇親会を行い、子どもから高齢者までの世代間交流を図っているが、皆が参加しやすいよう土日に開催している。

運動会については、黒保根学園と町会が合同で開催しているが、年々住民の高齢化が進んでいて若者も集められないため、できる種目も限られてきてしまっている。

情報提供については、隔月で自治会の情報や収支決算など色々な情報を全世帯に配布や回覧しているが、紙による回覧版では、早めに見て次へ回さないといけないということで、見逃したり忘れてしまったりしてしまうが、電子回覧板であれば保存されているため後で見直したりすることもできるなどメリットがあるため、皆が使いやすいものができればそのアプリやシステムを全市的に導入していただきたい。

(市長)
電子回覧板についても、一部地区で実証的に取組を始めており、今後、その効果を見極めながらデジタル化を検討していきたい。





（市長）
 本日頂いたご意見の中で、いくつかキーワードが出てきた。会議時間の関係、事務負担の軽減や事務委託料の関係、スポーツによる交流や魅力ある自治会・町会づくり、幅広い広報による担い手確保といったものが一つのキーワードとして挙げられた。頂いたご意見を参考にさせていただき、自治会活動に参加していただくための取組に生かしていきたい。

